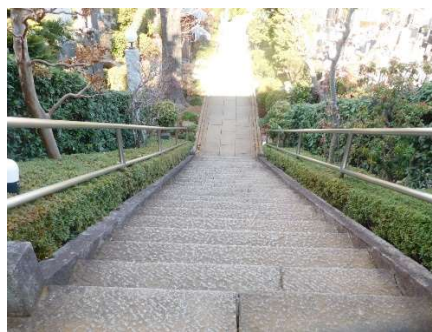


香林寺 川崎市麻生区細山 3-9-1

臨済宗建長寺派の寺で、大永5年(1525年)に南樹法泉和尚(天文23年1554年寂)によって開山されました。元々の本尊は宝亀7年(776年)弘法大師作といわれる十一面観音で、身代り観音とも呼ばれていましたが、文政13年(1830年)の火災で焼失し、現在は行基作の観音像が本尊となっています。焼失の後、本堂を現在の場所に移して再建、その後大正12年(1923年)の関東大震災で庫裡は全壊しますが、翌13年に再建しています。昭和46年(1971年)に本堂庫裡を新築、昭和53年(1978年)には鐘楼が建立されました。平成5年(1993年)には山門が新しくなり、平成9年(1997年)には庫裡、客殿を改築しています。昭和62年(1987)に細山・金程地区五大事業の完成を記念して建立された五重塔は、日本唯一の禅宗様式の塔で、中にはインドで製作された釈迦初転法輪像が安置されています。(新編武蔵風土記稿より)



道路に大きな石柱



参道は急な階段



本殿の扁額

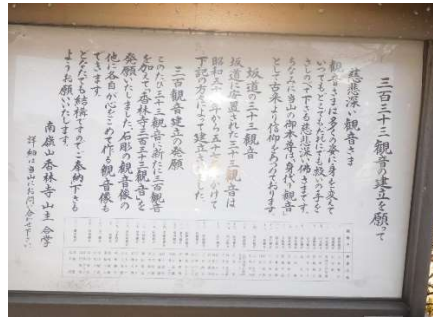


外にある十一面観音



布袋尊





道沿いには三十三観音のミニ霊場。



鐘堂

太子殿という六角堂



向唐門の棟門があり、周囲は低い柵になっている。
山の尾根に建っているなので、遠くからも見える。